

生涯学習エース

親睦・体力・健康

今回で二十八回目を迎えた「自治区対抗ミニバレー大会」が二月六日に開催されました。六自治区から十七チーム百三名のエントリーをいただき、応援団・関係者を含めると百四十二名の参加になりました。

ミニバレーは、昭和四十七年に十勝管内大樹町で考案されたスポーツです。

特徴は：

- ①軟らかく変化が面白いボール
- ②安心感を与えてくれる低いネット
- ③人数や運動量を考慮した小さなコート

④誰にでもわかる簡単なルールと、様々な工夫がされ、年齢や性別を越えて手軽に楽しめる軽スポーツとして高い人気を得ています。

本村では、昭和五十六年頃より、住民同士の親睦、冬季間における体力づくりと健康増進を図るためにミニバレーを普及してきました。十二月の一大会は、「仲間づくり」を、二月の「自治区対抗ミニバレー大会」は、「自治区単位」とすることによる「コミュニケーションづくり」を目指しています。



総合優勝した

第三自治区の選手たち

が活動していますが、以前より「自治区対抗」という行事が少なくなつてきましたと感じます。そのような中、この「自治区対抗ミニバレー」は、小学生から大人までが交流できる数少ない貴重な行事です。

地域は、人と人のふれあいと交流から成り立ち、そこから地域が元気になります。各自治区では、人集めに苦労されていることと思いますが、様々な行事に積極的に参加し、地域を元気にしていただきたいと思います。

なお、自治区対抗ミニバレー大会の結果は次のとおりです（優勝のみ）。

- ・ジュニアの部
 - ・一般女子の部
 - ・一般男子の部
 - ・総合の部
- 第三自治区 第三自治区 第三自治区 第三自治区

世界各国から日本へやつて来る多くの観光客の一番の楽しみは、本場の日本食を食べることだそうです。中国、韓国の人々は勿論ですが、東南アジアやアメリカ、ヨーロッパなどの人々も箸に慣れているようで、箸を上手に使い、日本食を食べる外国人の姿をテレビでよく見かけます。各国の様々な食材や調理方法の違ひなどから、世界各地に、食事の食べ方として、パサパサした米を食べることに適した「手食」、刺身、天ぷら、麺類などを挟んで食べることに適した「箸食」、肉のかたまりの料理（ステーキなど）が多い欧米食に適した「ナイフ・フォーク・スプーン食」の三大食作法が生まれたと言われています。

私たちが毎日使用している箸ですが、持ち方や使い方で周りの人に不快感を与えないために、箸のマナーに気をつけなければなりません。家庭教育の基本は、箸の使い方の躊躇から始まります。小さい時の癖が、大人になつても抜けきれず、箸を握るようにして持つ人もいます。



ナードについて説明することで、日本の食文化を紹介することにもつながります。夏に小学生と七輪を囲んで、ジンギスカンを食べている時の話です。なぜか数人の箸が動きません。「どうして食べないの？」と尋ねると、「人の箸が、食材に触れているから」と返答がありました。

一緒に「鍋」をツツイテ食べようと囲んだのに、時代によつて箸の文化も変わることだと感じました。ジンギスカンを皿に取る「取り箸」と「自分の箸」を使い分けして、全員で仲良く食べることが出来ました。鍋は日本食の代表的な料理ですが、挟むための箸は、正に鍋料理には最適です。

夕食の鍋を囲み、家族全員の箸が、鍋の中で会話をするのも、お箸の国ならではの食文化だと思います。